

令和3年度

学 校 評 価 シ ー ト

学校名：和歌山県立海南高等学校 海南校舎

学校長名：川久保 尚志

めざす学校像

育てたい生徒像

・社会で活躍できる確かな力量を備えた、次世代を担うリーダーの育成を目指す学校

・変化に対応する適応力・人間関係形成力を兼ね備え、課題解決のため主体的・協働的に行動できる生徒

本年度の重点目標

(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)

1

自ら考え、自ら学ぶ主体的な学習態度を身に付け、わかる授業を通して、確かな学力の定着と向上を図る。

2

キャリア教育の充実により、進路意識を涵養させるとともに、自立し、行動力のある社会人の育成を図る。

3

自主活動の活性化により、自主的・主体的かつ創造性豊かな人格の形成を目指す。

中期的な目標

・主体的な学びにつなげるカリキュラム開発と授業研究の推進

・地域の人材や素材を生かした講演等の定例化

・生徒が地域で活躍する機会の定着

学校評価の結果と改善方策の公表の方法

・学校運営協議会やPTA役員会等で説明をするとともに、ホームページ等で改善に向けた取組状況等を広く公表する。

達成度

A

十分に達成した。(80%以上)

B

概ね達成した。(60%以上)

C

あまり十分でない。(40%以上)

D

不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。

2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。

3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。

4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。

5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価

重 点 目 標

番号

現状と課題

評価項目

具体的取組

評価指標

1

・学力を含め高い資質を持つ生徒が多く、授業に臨む姿勢も真面目ではあるが、自ら積極的に学ぼうとする意欲が不足している。

・生徒の持つ資質や能力を発揮できるような指導体制を定着させる。

生徒が自ら学び、主体的に学習する授業改善への取組が行われているか。

・授業で学んだ知識やスキルをキャリア形成に役立たせているか。

・主体的な学びの実現にけた授業改善に取り組む。

・深い学びの前提となる知識・技能の確実な定着を図る。

・補習授業や集中学習会に組織的に取り組む。

・授業研究や公開授業の実施

・興味・関心を高める工夫と学習活動の振り返りを図る授業改善の実施

・各教科の成績分析と年間学習計画改善の実施

・補習・学習会への参加生徒数の増加

・全教員年間1回実施

2

・生徒・保護者が希望する進路実現と地域の期待に応えられる進路実績のさらなる向上を図る。

・次世代を担う人材を育成するため、キャリア教育を組織的計画的に推進する。

将来を見据えた主体的な進路選択を支援し、自立した社会人を育成する指導が行われているか。

・総合的な探究の時間「風は緑に」の中で、人間としての生き方・在り方を含めた指導内容の改善を図る。

・進路に対する現状認識と学力分析を行う。

・進学補習を効率的かつ組織的に実施する。

・地域の企業経営者から学ぶ「夢のかたち講座」(4回)、問題発見・解決を目指した「社会問題研究」(10回)の実施

・進路講演、模擬試験分析検討会を年3回以上実施

・進学補習への参加生徒数の増加

3

・部活動や生徒会活動は活発に行われているものの、社会で活躍する力を持ったリーダーや自ら課題を発見し、他者と協働しながら問題解決できる生徒が少ない。

主体的で創造性豊かな人格の形成を目指し、地域との連携・協働により社会に貢献できる生徒を育てる教育活動が行われているか。

・特別活動及び部活動を充実させる。

・地域に公開された学校行事を充実させるとともに、地方創生を含めた次世代を担う人材を育成する。

・部活動や生徒会行事の活動意義を啓発し情報発信する。

・部活動加入率8割以上と生徒会活動の活発化

・小中学校での教育活動に参画。地元企業との連携を行い、より高い学びの発見に向けた教育活動を行う。

・学校や生徒会(生徒)による定期的な情報発信

年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)

評価項目の達成状況

達成度

次年度への課題と改善方策

2回のオンライン授業研修の実施後、各教員がICTを活用した授業改善に取り組んだ。

各教科で成績分析を学期毎に行った。

各学年で補習への参加生徒を指名したこともあり、参加人数は増加した。

各教科で公開授業を実施した。

B

今後もICT教材の内容や授業方法も検討し、分かりやすくまた丁寧で質の高い授業を目指す。

各教科で定期的な成績分析を行う。

組織的に授業改善ができるように、研究授業を行う期間を設定する。

コロナ禍のため「夢のかたち講座」を4回実施し、充実した内容となった。

進路キャリア部中心に分析検討会を2回実施した。

夏季補習や面接・小論文講座、経済学講座などニーズに応じた補習を実施し、概ね目標は達成できた。

A

関係機関と連携し、「夢のかたち講座」の開催時期・内容を検討する。

模擬試験ごとに分析会を開催するとともに、外部講師を招聘し、現状分析の助言をいただく。

生徒のニーズに合った進学補習となるように、内容を検討する。

部活動入部率は概ね90%程度であり、各部活動も活発である。

コロナ禍で学校行事を公開できなかったが、生徒会が主体となって学校行事を開催できたことは大きな成果である。

マンスリータイムズや生徒会会誌で定期的に情報発信ができた。

B

部活動の数が多いため、統廃合について検討する。

今後も生徒の自主的な活動を支え、リーダーの育成と地方創生を含めた次世代を担う人材を育成していく。

今後もマンスリータイムズや生徒会会誌を通して、情報発信を行っていく。

学 校 関 係 者 評 価

令和3年2月4日・14日 実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

・静波会(PTA)役員からの学校評価アンケートでは、今年度も生活、進路、教科、自主活動の指導については良い評価をいただいた。特に生徒の学校生活の様子や生徒会活動・部活動への取り組み状況については高い評価を得ている。また、本校の教育方針や重点目標への理解も深く、本校から発信した情報が良く伝わっているものと考える。一方では、より分かりやすい授業実践と進路指導やキャリア教育の更なる充実を期待する声も寄せられている。

・学校運営協議会では、SSH研究活動を高く評価していただき、今後もその活動を地域に発信することが期待されている。学校の社会資本としての役割についても再認識し、地域連携のさらなる推進に期待が寄せられている。